



# わたしの1枚

## ブランドイメージ

茨城県知事 橋本 昌

ここ数年、ブランド総合研究所の「地域ブランド調査」がよく話題にされます。茨城県の「魅力度」は3年連続、全都道府県中47位です。この調査の「魅力度」は、魅力があるか、ないか5段階で聞く主観的なもので、調査元によれば、行ってみたい観光地「観光意欲度」とほぼ同じ傾向があるそうです。茨城県は特に首都圏の方々にとつて身近で手軽に訪問できるため、わざわざ行ってみたいと名前を挙げてはくれないようです。

では、茨城県に観光客は来ていないかというところ、そうではありません。茨城県の2013年の観光入り込み客数は、観光庁に報告のあった44都道府県中16位、14年は39都道府県中11位と、結構上位です。

生産量日本一のメロンやレンコン、特産のあんこう鍋、海外でも好評の常陸牛など、多彩で豊かな食をはじめ、日本遺産に認定された弘道館・偕楽園、袋田の滝や筑波山、環境省の「快水浴場百選」に5カ所も選定された海水浴場、世界の絶景と称されるネモフィラで知られるひたち海浜公園、豊富な温泉など、茨城県はたくさん観光資源を有しています。

また、農業産出額が全国2位、製造品出荷額等が同8位であるほか、過去10年間の工場立地面積や県外企業立地件数が全国1位であるなど、産業面でも高い実力を持つてい



ます。この5月にはG7茨城・つくば科学技術大臣会合が開催され、ロボットなど最先端の科学技術は、各国の大臣から大変注目されました。さらに、東洋経済新報社の都市の「住みよさランキング」では、上位100位以内に守谷市やつくば市など、県内5市がランクインしており、住みやすい地域としての高い評価も頂いています。茨城県民は自分のことは自慢しない奥ゆかしい人ばかり

です。しかしそれでは、これからの世の中通用しません。もっと積極的に茨城のことをPRしようと、「いばらきを知ろう！ 大キャンペーン」を始めました。

写真は、東京・銀座に設置したアンテナショップ「茨城マルシェ」において、昨年11月に、県出身の吉本芸人綾部祐二さんや渡辺直美さん、県非公認キャラクター「ねばる君」たちと、キックオフイベントを開催

したときのものです。ねばる君は今、人気絶頂です。

9月には県北部6市町を舞台に「海か、山か、芸術か？」をテーマとして、世界の第一線で活躍するアーティストが地域の新たな魅力を創造・発信する現代アートの祭典「茨城県北芸術祭 KENPOKU ART 2016」を開催します。今年は芸術の秋、食欲の秋を茨城で堪能してみませんか。ご来県をお待ちしております。